

# 震災時の家具転倒から身を守ろう

瓦支え合いの会



# 瓦宮支え合いの会とは

【設 立】 2022年4月

【会員数】 13人

【目 的】 ご近所さんが足りないところを互いに補い、息遣いが聞こえるような地域の支え合い活動を通じて、「高齢になっても、安心して住み続けられる町作りをめざすこと」を目的として作った瓦宮西園田社会福祉協会の組織内のボランティア団体です。

【事業】 買物、草刈り、洗濯物干し・取り入れ、子どもゴミ出しボランティア、掃除、電球交換、家具の移動、代筆・代読、家具の移動、ペットの世話等多岐にわたる

# 「震災時の家具転倒から身を守ろう」について

【内容】 地震などの緊急事態が発生した場合に備えるため、防災連絡網を整備し、震災時に家具などの転倒による危険から障害者・高齢者を守るために障害者・高齢者のなかから希望者を募り「防災ポール」（つかい棒）を設置する。障害者・高齢者が高い所に上がって作業することは危険が伴うので、町会の支え合い活動として取り組む。

【広報】 町会だより、掲示板、チラシ

【対象者】 瓦宮西園田社会福祉協会の地域内の高齢者・障害者

# 「震災時の家具転倒から身を守ろう」について

【効果1】 防災ポールを設置された方にアンケートを通じて分かったことは、防災ポールが「地震で家具などの転倒から身を守るのに役立ち」（地震対策として有効だと気付いたを含む）、能登地震以降地震が多発しているので「設置する前は不安だったが、安心感をもてるようになり、更に「備蓄品の点検を始める等防災に対する認識を強め」たり、「避難場所を再度確認する等」の、もしもの場合に備えることの大切さに改めて気づいてもらえる効果が得られた。

# 「震災時の家具転倒から身を守ろう」について

【効果2】 防災ポール設置活動を通じて、地域住民の防災意識の向上を図ると共に、災害発生時に町会内での高齢者・障害者の避難を促す支援活動に取り組む機運を高める効果があった。

その活動を要約すると、町会の各班毎に高齢者・障害者のひとり暮らし、老老暮らし、多世代同居世帯の具体的な困りごとをリストアップして調査したものを住宅地図に落とし込む。次に、「要支援者」宅を訪問し災害発生時に避難を促し、支援をしてくれる近隣のひと（支援者）を予め選んでもらっておくという活動のことです。

# 「震災時の家具転倒から身を守ろう」について

